

Gallery 愛海詩

えみし

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予約をお手数ですがお電話下さい。

とろはくじ
桃白磁・白磁
北川 智浩
作陶展
～優しく・シャープ～
8月30日～9月11日

彩遊の号 No.44
愛海詩の会
会報
令和4年8月15日発行
編集発行人/ギャラリー愛海詩
佐藤 睦子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com



創作中の北川智浩氏

平和と美

立秋から処暑へ、残暑に汗をかきつつですが、秋が生まれる気配も感じられます。庭の撫子が淡紅に咲き、萩がゆるりと風に舞います。まるで白帝が秋風にのって、自然の理を伝えてくれるようでもあります。自然はいつも淡淡とやるべき事をやって、その理を違えることはありません。

廻る季節は「真理」を伝えてくれます。真理は現実に姿を現す時に「美」という形をとります。それは調和であり、共生であり、各々の立場で生かされている、ということでもあります。みなさん、一人一人は命の波の先頭に立っていると云えます。

「真理」と「美」は「感性」が瑞々しくなければ捉えられないものです。感性こそ人間らしい在り方の基本にあるものですが、それは日常の事物全般から学び取るもので、生活の質と相照らされまます。未知への発見、諸々の人・物・事との出会いの中で時に「なぜ?」「どうして?」と問うて行く事も大切です。その答えは静かな水面、鏡の心を持つ眼で見つけて行くものだと思います。

「共感」と「感性」の基本にあるのは「慈悲」です。これなくして共に生きることができませんし、平和もありません。平和がなければ芸術も文化もありません。智慧は慈悲によって力を増します。美と共生の理は自然が論じてくれます。

八月は祈りの月でもあります。みなさん各々、豊かな感性を持ち、平和理の中で自身のでき得る事を、その「美」を咲かせて下さい。何事も早い、そして遅いという事はないのです。

(佐藤 睦子)

お誘い☆北川智浩氏を囲む会☆

9月2日(金)、3日(土)、4日(日)の午後3時～午後4時30分まで。

参加費 5,000円(先着4名様) 場所 ギャラリー愛海詩2F

・北川氏のレクチャーと素敵な北川氏の作品をプレゼントさせていただきます。
・どなたでも参加できる楽しい有意義な会です。ギャラリー愛海詩までご予約下さい。

陶芸家・北川智浩氏、ギャラリー愛海詩で初めての作品展です。皿・鉢・茶道具・花器・ランプシェードなど、約四十点を展示します。見どころの一つに、北川氏のオリジナル作品「桃白磁」があります。大変な試行錯誤を重ねての作品です。また、陰影の美しさを持つ白磁作品も楽しみです。形として残って行く作品への真摯な向き合い方が、北川氏の誠実な仕事振り、作品に伺えます。北海道が大切にしたい数少ない磁器創りの作家です。

この度はギャラリー愛海詩で作品展を開催させていただき、誠にありがとうございます。私は磁器素地を用いて、白磁と桃白磁(とうはくじ)という大きく2種類の仕事を進めています。白磁は1000年以上の歴史があるやきもので、桃白磁は新しいコンセプトで制作しています。私はやきものの修業時代、特に約1000年前の古代中国の陶磁器を見て大きく心を動かされました。東洋陶磁美術館(大阪)や故宮博物館(台湾)に収蔵されている作品群です。今、作品として世に出す以上、そういった古陶磁と同じ土俵で勝負する、と考えています。何か新しいアプローチ、新たな形、という事を考えつつ自分の足元を見つめなおして、身近にある江別の冬の雪や氷、氷柱をモチーフにすることを考え、作陶しています。北海道らしさとは何か...ということにもなります。冬に窯で作品を焼いていると窯小屋の屋根には昔ながらの大きな氷柱ができます。北国に暮らす者にとって屋根の氷柱は、建物の断熱やエネルギー効率の悪さを周囲に知らせるただの厄介なモノです。ですが、築窯のため16年ぶりに北海道に移り住み、久しぶりに見る氷柱は単純に造形物として魅力的に見えました。途中で緩やかにカーブしていたり、二股に分かれていたり、氷柱の凸凹など、同じ屋根にあっても一つとして同じ形のない氷柱。江別の地での制作は始まったばかりで、まだまだ、名のある古陶磁の足元にも及びませんが、へこたれずに挑戦することで、少しは前に進むことができると考えています。この度の作陶展、ご高覧下さい。

「ご挨拶」作品展によせて

陶芸家・北川 智浩

この度はギャラリー愛海詩で作品展を開催させていただき、誠にありがとうございます。私は磁器素地を用いて、白磁と桃白磁(とうはくじ)という大きく2種類の仕事を進めています。白磁は1000年以上の歴史があるやきもので、桃白磁は新しいコンセプトで制作しています。私はやきものの修業時代、特に約1000年前の古代中国の陶磁器を見て大きく心を動かされました。東洋陶磁美術館(大阪)や故宮博物館(台湾)に収蔵されている作品群です。今、作品として世に出す以上、そういった古陶磁と同じ土俵で勝負する、と考えています。何か新しいアプローチ、新たな形、という事を考えつつ自分の足元を見つめなおして、身近にある江別の冬の雪や氷、氷柱をモチーフにすることを考え、作陶しています。北海道らしさとは何か...ということにもなります。冬に窯で作品を焼いていると窯小屋の屋根には昔ながらの大きな氷柱ができます。北国に暮らす者にとって屋根の氷柱は、建物の断熱やエネルギー効率の悪さを周囲に知らせるただの厄介なモノです。ですが、築窯のため16年ぶりに北海道に移り住み、久しぶりに見る氷柱は単純に造形物として魅力的に見えました。途中で緩やかにカーブしていたり、二股に分かれていたり、氷柱の凸凹など、同じ屋根にあっても一つとして同じ形のない氷柱。江別の地での制作は始まったばかりで、まだまだ、名のある古陶磁の足元にも及びませんが、へこたれずに挑戦することで、少しは前に進むことができると考えています。この度の作陶展、ご高覧下さい。

- ### プロフィール
- 1967 北海道帯広市生まれ、道東各地で過ごす。
 - 1991 同志社大学法学部法律学科卒業
 - 1995 横浜市、野中春利氏、野中春雨氏に師事
 - 2002 北海道江別市にて築窯、独立
 - 2004 伝統工芸新作展 入選(以後15回)
 - 2008 日本伝統工芸展 入選(以後6回)
 - 2010 「陶=表現展」出品(ギャラリー門馬/北海道札幌市)
 - 2011 「北川智浩展～白磁大鉢と水氷文様～」(セラミックアートセンター/北海道江別市)
 - 2013 現代茶陶展 入選(以後3回)
 - 2014 美濃陶芸庄六賞茶壺展 入選(以後1回)
 - 伊丹国際クラフト展 入選
 - 個展 札幌三越百貨店(以後4回)
 - 2015 個展(回廊ギャラリー門/茨城県空間市)
 - 2016 第1回日本陶磁協会「現在陶芸奨励賞 北海道展」奨励賞 個展(東武百貨店池袋店/東京都豊島区)
 - 2017 個展(ギャラリーおかりや/東京都中央区銀座、以後2回)
 - 個展(東急百貨店札幌店/北海道札幌市、以後2回)
 - 2018 陶美展 入選(以後1回)
 - 「陶芸～新世代の技とカタチ展」出品(札幌芸術の森/北海道札幌市)
 - 2019 現在形の陶芸 秋大賞展V 入選
 - 東洋陶磁学会 第47回大会にて研究発表「江別での磁器制作について」
 - 菊池ビエンナーレ 入選
 - 2020 北海道文化奨励賞
- ### パブリックコレクション
- 江別市セラミックアートセンター
- 現在 (公社)日本工芸会 正会員
(公社)日本工芸会 東日本支部 北海道研究会 代表
北翔大学 教育文化学部 芸術学科 非常勤講師
『野幌陶磁器教室』主宰

作品名で「白磁水氷」と表記している「水氷」とは、水から氷、氷から水の変化や動きを形にしたもので、具体的には氷柱(つらら)をモチーフにしています。よりシャープで新たな形に取り組んでいるシリーズです。また、「桃白磁」は磁器素地にクロム象嵌を施し、酸化焼成で釉薬と反応させた作品で、いわば磁器にほのかな温みの彩りを感じさせるシリーズです。北川氏のオリジナルと言えます。



桃白磁雪文水指(巾17cm×高さ18.3cm)

やわらかいグレーと赤のにじみが雪文を現し、白磁のやさしいフォルムに癒やうように彩られています。つまみの丸の連がアクセントになって愛らしく、茶室に物語が生まれて来ます。



桃白磁菱雪文蓋物(巾6.4cm×高さ6.2cm)

蓋物を使う楽しみを教えてください。大切な物を仕舞っておこうか、おいしい物を入れようか...それは喜びの中で日常を楽しませてくれるに違いありません。



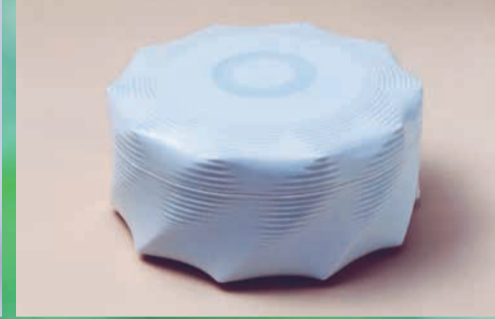
桃白磁雪文茶盤(巾12.5cm×高さ6.4cm)

やわらかく温かみのある「桃白磁」の色彩は和みの茶室の中で、人の心に小さなゆらぎの灯りをともしようように、「和歌清寂」の一期をいただけます。



桃白磁菱雪文香炉(巾9.5cm×高さ14.4cm)

菱の繋ぎとドットの雪文がみごとなコントラストを見せ、釉薬を生地に埋め込むという象嵌技法が作品に深みを感じさせます。北の街の風情と共にその香りに目・耳を澄ませて下さい。



白磁水氷文食籠(巾20.5cm×高さ10cm)

北国の「つらら」をモチーフにつくられた「水氷文」。線の陰影がゆらぎを感じさせ、陽の移ろいをも捉えているように、蓋を開ける時のうれしさが満たされて行きます。



白磁線文七角鉢(巾52.5cm×高さ10cm)

七角の鉢に水紋と風を感じ、静と動、陰と陽の佇まいがどんな料理の食材も美味しく包んでくれる、見せてくれる作品です。



白磁線文壺(巾23.5cm×高さ20cm)

静かな水輪を思わせる静謐な作品です。手彫りの線の美しさが際立ちます。挿した花の命を活かし、活かされる線文壺です。



桃白磁雪輪文片口(巾12cm×高さ8.2cm)

桃白磁雪輪文ぐい呑み(巾5.7cm×高さ6.0cm)

対で使いたい器。語らいの刻も思索の刻も優しい時間が流れて行きそうです。曲線のやわらかさが手に伝わって来て、永く側に置いて使いたい器です。

お知らせ 9月1日(木)午前11時から約1時間、FMラジオカロス札幌78.1Mhz「木曜而今」の番組(ギャラリー愛海詩 佐藤が担当しております)に陶芸家・北川智浩氏が出演されます。(土曜日11時から再放送 リッスンラジオのアプリでも聞くことができます)どうぞお聞き下さいませ。